

# リスク情報活用にかかる標準整備への 研究成果の活用

## 本セッションの目的と論点

2022年9月9日

座長 山本章夫（名古屋大）

# 背景

- 2021年秋の大会の標準委員会企画セッション及び2021年10月の日本電気協会シンポジウムで議論のあった「規制基準、学協会規格、民間ガイドの関係と分担」では、規格・標準の策定にあたり、関係組織の連携について具体的な議論に入る必要性が明らかになった。
- 2022年春の年会の企画セッションでは標準委員会の役割等に加えて、電気協会や機械学会の取り組みを紹介いただくとともに、規制庁、ATENAからも意見を得て、規格基準類の組織間での棲み分けについては、特に方向性が異なることは無く、一方でリソースの面からは連携が重要であることが示された。
- 一方、標準委員会における「リスク情報活用の取組」として、PRA標準やIRIDM標準がある。これら標準の策定には、常に新知見やユーザーの経験を取り込み、制定・改定を行ってきている。これらの標準類を活用したリスク情報活用をさらに促進するためには、関連する研究開発の成果の取り込みが必要である。

# 目的及び内容

- 本企画セッションでは、リスク情報活用をさらに促進していくことに用いるPRA標準、IRIDM標準の改善に資する研究開発と知見の標準への反映について、関係組織も交えて意見交換を行うことを目的とする。
- そのために、まず標準委員会におけるPRA標準等にかかる新知見の収集や反映の取組を紹介した上で、原子力規制庁及び電中研NRRCからの研究紹介に加えて、PRA等に対する有識者を交えて、相互の情報交換による手法の高度化や成果の共同活用、学協会への展開や連携の可能性を議論する。
- さらに、リスク情報活用を活性化するためにPRA標準等に何が求められるか、も議論する。

# プログラム

2022年9月9日(金)

4

13:00~14:30

(1) リスク情報活用にかかる標準への知見反映

(標準委員会) 成宮 祥介

(2) 規制活動のためのレベル1PRAの研究

(規制庁) 濱口 義兼

(3) NRRCにおける研究成果と標準等への反映等の関わり

(電中研) 古田 泰

(4) 討論

司会 (名大) 山本 章夫  
(標準委員会) 成宮 祥介、(規制庁) 濱口 義兼  
(電中研) 古田 泰、(JAEA) 高田 毅士  
(原子力エンジニア) 倉本 孝弘

# 議論のポイント

- リスク情報活用に関連する標準類について、新たに取り込むべき項目や新知見は何か？
  - PRA標準
  - IRIDM標準、など
- 事業者・規制・大学・研究機関におけるリスク評価手法の研究やリスク情報活用の経験は、標準類の制定・改訂に適切にフィードバックされているか？
  - Good practiceは？
  - うまくフィードバックされていないとすれば、何を変える必要がある？